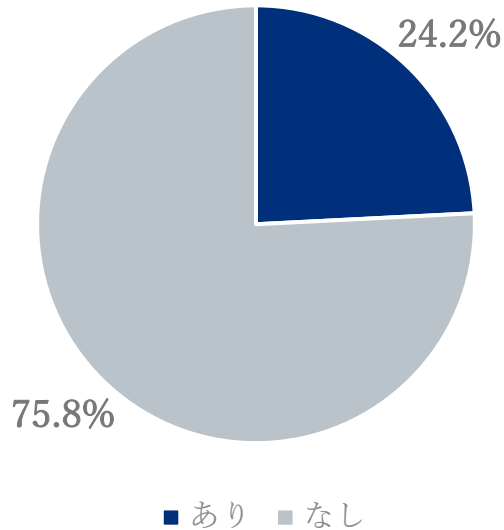


簡易調査報告書

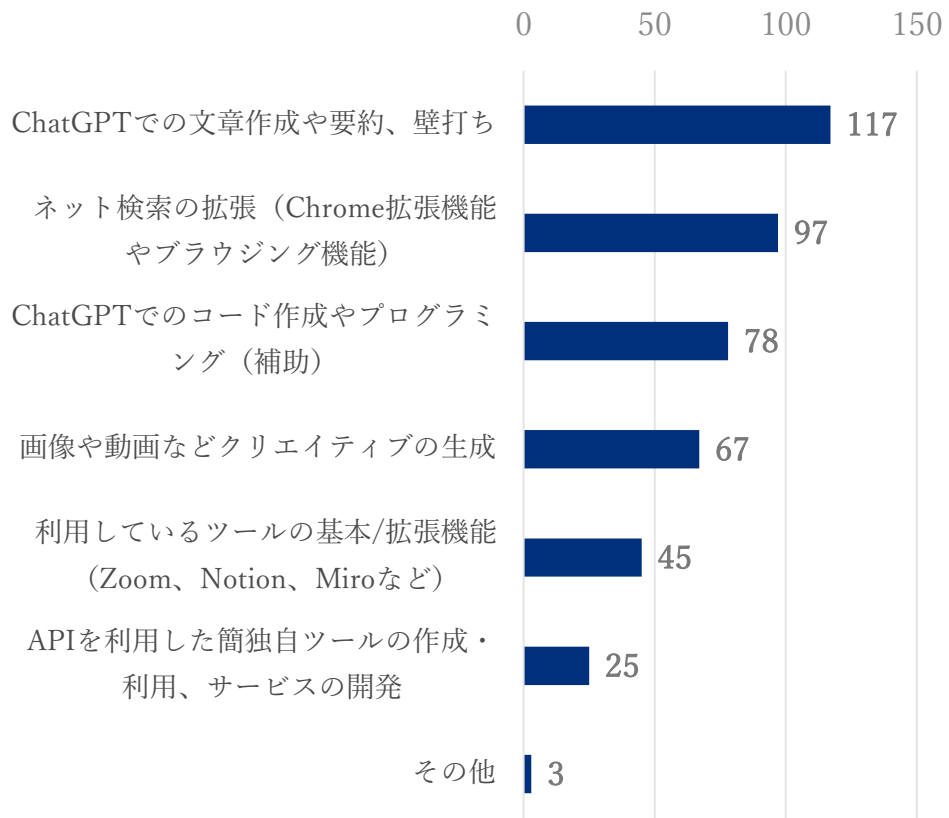


# プライベートでの生成AI使用経験

## ①プライベートで生成AIの使用経験はありますか？



## ②プライベートで生成AIに関して経験のあるものをすべて選んでください (生成AI使用経験ありの方のみ、複数回答)



# プライベートでの生成AI使用経験

2023年12月、法人営業に従事する23~59歳に対し、「プライベートでの生成AIの使用経験」に関する調査を行った。

①「プライベートでの生成AIの使用経験」の有無に関しては、使用経験があると回答した割合は全体の24.2%に留まり、使用経験がないと回答した割合は全体の75.8%に上った。これは営業職において、プライベートで生成AIを使用する文化がまだ浸透していないことを示唆している。

②生成AIの使用経験があると回答した中で、最も割合が高い使用方法は「ChatGPTでの文章作成や要約、壁打ち」である。また、「ChatGPTでの文章作成」「ネット検索の拡張」に次いで割合が高いのが「ChatGPTでのコード作成やプログラミング（補助）」となっている。これらは生成AIの認知度がChatGPT-4の発表によって広まった背景を反映しているといえる。

こういった文章やコード作成などは、営業職の業務でも役立つと想定される分野である。煩雑とされる商談の準備、資料の作成、レポートや議事録の作成などに充てている時間を削減し、本来重要である、お客様とコミュニケーションを取り、提案する時間を増やすことができる。プライベートでのこういった機能の使用経験が増え、効果が実感されれば、業務でも生成AIを取り入れる割合が増える可能性があるだろう。

しかし、プライベートで生成AIを使用しているものの、所属企業では生成AIの使用が禁止されているため、業務で使用できないという割合も一定存在している※。今後、生成AIの導入効果や活用方法がさらに広く認知されるようになれば、企業側での導入・活用が進み、相対的にプライベートでの使用割合も増加するだろう。

※参考：営業総合研究所『営業における生成AI活用の実態調査レポート Vol.1』  
(<https://www.eigyoh.com/column/eisouken-04-sales-ai-katsuyou>)

---

【調査方法】 標本調査（外部の調査機関を使用）

【調査対象】 法人営業に従事する23歳~59歳

【調査時期】 2023/12/8~2023/12/23

【N数】 ①回答者数=1019名

②回答者数=247名、回答数=432件